

# クラシックのエントランス

すぐ目の前、手が届くところにある感動と発見。  
ファンはもちろん、苦手な貴方にもお勧めのクラシック音楽入門篇。



Chapter  
11  
2001  
**10/7**  
日

■開場 13:30 ■開演 14:00

## 木の葉のビブラート

クロマチック・ハーモニカ



小林史真

ピアノ



石橋尚子

大人には切なく懐かしい、そして子どもには楽しく不思議な音色……。クラシック音楽にはちょっと珍しいクロマチック・ハーモニカの世界へ、小林史真がご案内。

●10月5日(金)19:00～  
小林史真ワークショップ  
子どもの頃、誰もが一度は触れたことのある、ハーモニカ。そんな身近な「ハーモニカ」にまつわる話を中心にワークショップを開催。事前にお電話でお申し込みください。参加費は300円です。(公演のチケットをお持ちの方は参加無料)

Chapter  
12  
2001  
**12/2**  
日

■開場 13:30 ■開演 14:00

## 水のアルペジオ



アムステルダム・ギター・トリオ

ヘレヌス・デ・リケ  
オルガ・フランセン  
エスター・シュティンベルゲン

水の国・オランダより、「クラエン」初の海外アーティスト登場! ギター3本、18弦の表情豊かなサウンドと斬新なアレンジに、クラシックの新たな一面を見る。

Chapter  
13  
2002  
**2/24**  
日

■開場 13:30 ■開演 14:00

## 風と木のトリル

サクソフォーン



田中靖人

ピアノ



白石光隆

優しく深いサクソの音色、そこにピアノのたおやかな響きが融合する……。実力派・若手アーティスト二人が紡ぎ出すリラクゼーションが、温かく体を包む。

●2月22日(金)19:00～  
田中靖人+白石光隆ワークショップ  
数ある楽器の中でも人気のサクソフォーン、ピアノの両楽器。そんな人気の楽器の魅力により詳しく解説。ミニレクチャーも開催。事前にお電話でお申し込みください。参加費は300円です。(公演のチケットをお持ちの方は参加無料)

会場◆黒部市国際文化センターカラーレ(マルチホール)

■入場料:全席自由(珈琲・紅茶付)

〈各回〉一般:2,000円 高校生以下:800円  
〈3回通し〉一般:4,000円 高校生以下:1,500円

プレイ  
ガイド

主催/財団法人黒部市国際文化センター  
後援/黒部市・黒部市教育委員会・黒部市社会福祉協議会  
お問い合わせ先/財団法人黒部市国際文化センター ☎0765(57)1201  
■5歳未満のお子様の入場はご遠慮願います。■公演中の一時保育を希望される方は事前にご連絡下さい。

(黒部市) カラーレ……………☎0765(57)1201  
メルシー……………☎0765(54)2221  
ロイヤルバリー黒部……………☎0765(54)1000  
(魚津市) 新川文化ホール……………☎0765(23)1123  
魚津サンプラザ……………☎0765(24)3030  
(入善町) コスモホール……………☎0765(72)1105  
コスモ21……………☎0765(74)9100  
(宇奈月町) 宇奈月国際会館……………☎0765(62)2000  
(朝日町) アスカ……………☎0765(82)2000  
(富山市) インフォマート[市民プラザ]……………☎076(491)0110  
[ICIC駅前店]……………☎076(444)7013  
(高岡市) 高岡大和……………☎0766(27)1774



Chapter 11  
2001 10/7  
E

木の葉のビブラート

小林史真 こばやし しま (クロマチック・ハーモニカ)

独奏や客演はもちろん、民族音楽や舞踊・語り・映像など、他の芸術分野とのコラボレーションなどにも意欲的、独創的に取り組んで注目を集めている気鋭のアーティスト。

幼少よりピアノを独学。またオルガンや聖歌隊合唱を通して音楽に親しむ。

14歳よりクロマチック・ハーモニカを崎元謙氏に師事。16歳で単身米国ペンシルバニア州に渡り、様々な分野での創作活動を経る中でハーモニカ演奏家を志す。1992年「FIHハーモニカコンテスト」クロマチック部門第2位となり注目を浴びる。翌年93年には同コンテストで優勝。ラジオやテレビ出演をはじめ、各地で演奏活動を行う。

95年イギリスへ渡り、クラシックハーモニカ史上極めて重要な演奏家であるトミー・ライリー氏に師事。同年開かれた「ワールド・ハーモニカ・チャンピオンシップス」クロマチック部門第1位を獲得するほか、他の全部門の優勝者の中からワールド・チャンピオンに選ばれ、その評価を決定的なものとした。その後、ライリー氏の強い勧めにより文化庁の奨学金を得て、96~97年に再渡英し、異例の個人指導のもとで、氏に捧げられた多くの近・現代作曲家の作品についての知識と技術を受け継ぐ。

97年には国立劇場11月聲明公演において、三宅榛名氏作曲「滅びた世界から／エレミア哀歌より」のハーモニカパートを担当。

同年からは国内での演奏活動に加えて、定期的にイギリスへ渡り、ロンドン各地でリサイタルを行っている。また、99年には台湾において委嘱作品の演奏が絶賛された。

2000年4月、初めてのCD「Shima Golden Girl」をフォンテックからリリース。同年10月に東京の紀尾井小ホールでCD発売記念のリサイタルを行い、好評を博した。

石橋尚子 いしばし なおこ (ピアノ)

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部を卒業。卒業と同時に同大学管楽器伴奏研究員となり、管楽器とのアンサンブルを学ぶ。その後、管楽器とのアンサンブルを活動の中心として、第15回・第17回霧島国際音楽祭に出演。1993年よりフルートの工藤重典氏のマスタークラスにピアニストとして参加。97年7~8月、NHK教育テレビ「趣味悠々・フルート入門」でも、工藤重典氏のピアニストを務めている。また、国際オーボエ・コンクール、日本木管コンクールでは、公式伴奏者を務めている。

ピアノを北村陽子氏に、伴奏法・室内楽を故・H.ビュイグーロジェ、廻由美子の各氏に師事。

昨年1月、Chapter5「プラチナの妖艶」で、フルート・岩間丈正とともに聴衆を魅了したことは記憶に新しい。

Chapter 12  
2001 12/2  
E

水のアルペジオ

アムステルダム・ギター・トリオ

アムステルダム・ギター・トリオは、ヘルス・デ・リケ、オルガ・フランセン、エスター・シュティンベルゲンの3人のギター奏者によって結成され、世界のギター・アンサンブルの中で最も良質の名アンサンブルと評価されている。ギターのアンサンブルという編成の珍しさ売り物にするのではなく、その編曲の見事さと音楽的発想のユニークさによってファンの圧倒的支持を得ており、世界的な人気と名声を不動のものにしている。バロックから現代に至るクラシック音楽のさまざまな名曲を3つのギターで演奏するが、そこではイマジネーションに溢れる創造的な名編曲が大きな魅力を放っており、最近ではタイの作曲家ヌー・ハントラクルの東洋的なサウンドから、オランダの作曲家チール・メイヤリングのスリリングな音楽に至るまで、実に幅広いレパートリーを演奏している。

1988年に結成し、既にアメリカとカナダで80回を超えるコンサートを行っている他、ヨーロッパのさまざまな大都市の主要なコンサート・ホールにも繰り返し出演しており、スター・アーティストたるにふさわしいキャリアを築き上げている。

過去に一度来日した際には、そのフレッシュな魅力によってファンに強烈な印象を与えた。さらに、ヴィヴァルディ「四季」のレコーディングがエディソン賞を受賞し、大きなセンセーションを巻き起こした。

ギター・アンサンブルとして最高の力量を有しているが、その人氣と名声は、ラディカルな大胆さと発想の独創性によるものであり、その絶大な魅力によって世界中のファンを惹き付けている。

ヘルス・デ・リケ

8歳よりギターを始める。18歳の時にアムステルダム大学で、ラテン語とギリシャ語を短い間勉強したが、すぐにまたギターに戻り、アムステルダムのスヴェーリンク音楽院に入学。卒業後、彼と2人の友人とアムステルダム・ギター・トリオを結成。

オルガ・フランセン

音楽家の家族の一員として、幼いうちからラジオやテレビに出演した。オルガはピアノとオーボエとヴァイオリンも演奏したが、家族にギタリストがいなかったため、ギターを選んだ。数年間マストリヒトで勉強した後、アムステルダムに移り、スヴェーリンク音楽院で仲間と会うことになる。

エスター・シュティンベルゲン

12歳よりギターを始める。エスターはロッテルダム音楽院で勉強を始め、ケルン音楽大学にてヒューベルト・ケッペル氏に師事、優秀な成績で卒業した。マヌエル・バルエコ氏、レオ・ブローアワー氏のマスタークラスに参加、スペインのマリナ・カナルス国際コンクールで優勝。

Chapter 13  
2002 2/24  
E

風と木のトリル

田中靖人 たなか やすと (サクソフォーン)

日本を代表するサクソフォーン奏者の一人。

国立音大在学中、第4回日本管打楽器コンクール・サクソフォーン部門で第1位を獲得し鮮やかにデビュー。その音楽性は「内的な詩を持つ大器」と絶賛され、サクソフォーンの父ともいえる名演奏家マルセル・ミュールをも唖らせた。矢田部賞受賞とともに国立音大を卒業後は、ソリストとして高度なテクニックと個性のかつヒューマンな音楽性を遺憾なく発揮。聴衆の圧倒的な支持を以て数々のリサイタルを成功させ、1991年には「音楽器ソロ名曲集・サクソフォーン」でCDデビュー。以降、95年10月にはオール・ドリュシー・プログラムによる「ラブソフィー」、97年3月には「サクソフォビア」をEMIからリリースし、クラシックの思考にとられない彼の姿勢は各界から注目を集め、高い評価を得ている。一方、室内楽のジャンルではサクソフォーン四重奏団トルヴェール・クワルテットで活躍。92年の東京国際音楽コンクールで第2位を獲得した同グループは、サントリー大ホールでのリサイタルでも成功を収めた。

サクソフォーンを故・大室勇一氏に師事。現在、東京佼成ウインドオーケストラ団員。昭和音楽大学非常勤講師。

白石光隆 しらいし みつたか (ピアノ)

1989年に東京芸術大学大学院を修了後、ジュリアード音楽院へ進む。1990年にはジーナバックカウアー国際奨学金コンクールに入賞。1991年学内におけるコンチェルト・コンペティションで優勝し、リンカーンセンター内アリストラーホールでジュリアード・オーケストラとラフマニノフ「ピアノ協奏曲第3番」で協演。鋭い感性とパワー溢れる行動力で、アメリカ留学中も幅広く活躍。

帰国後は音楽にさらなる深みが増し、ソロ、室内楽、協奏曲等、そのステージは決して期待を裏切らないオリティの高いものとして定評がある。1994年第63回日本音楽コンクール声楽部門・木下賞(共演)受賞。

レパートリーも広く、邦人、現代作品やジャズ分野でも評価が高く、吉松隆、長生淳らの作品を入れたCD「レグリス回路」は山野楽器「98年度アカデミー賞(現代曲部門)」を受賞。サクソ奏者の小串俊寿等の音楽仲間と昨夏リリースした「Happy Sax Carnival」も好評である。また毎年開催しているリサイタルも2001年9月で14回を数え、意欲的なプログラミングはもとより、近年は透明感ある音に奥行きと厚み加わり、圧倒的なリズム感と、生き生きと、説得力のある演奏スタイルで、回を重ねるごとにファンを増やしている。

ピアノを金澤桂子、高良芳枝、故伊達純、小林仁、M.キャンンの各氏に、室内楽をF.ガリミア、伴奏法をJ.フェルドマンの各氏に師事。現在、東京芸術大学ピアノ科非常勤講師。